
平成31年 第1回(定例)新宮町議会会議録(第2日)

平成31年3月6日(水曜日)

議事日程(第2号)

平成31年3月6日 午前9時30分開議

日程第1 第23号議案 平成30年度新宮町一般会計補正予算について

日程第2 一般質問

通告1番 庵原 伸一 議員 1) 新しい英語教育に人工知能(AI)の導入は

通告2番 大牟田 直人 議員 1) SDGs(持続可能な開発目標)の理念に沿った取り組みの推進を

通告3番 上畝地 白馬 議員 1) ダイバーシティ(多様性)社会への対応は

本日の会議に付した事件

日程第1 第23号議案 平成30年度新宮町一般会計補正予算について

日程第2 一般質問

通告1番 庵原 伸一 議員 1) 新しい英語教育に人工知能(AI)の導入は

通告2番 大牟田 直人 議員 1) SDGs(持続可能な開発目標)の理念に沿った取り組みの推進を

通告3番 上畝地 白馬 議員 1) ダイバーシティ(多様性)社会への対応は

出席議員(10名)

1番 上畝地白馬君

2番 森 秀司君

3番 安武 寛憲君

5番 庵原 伸一君

6番 大牟田直人君

7番 高木 義輔君

9番 横大路政之君

11番 牧野真紀子君

12番 松井 和行君

13番 北崎 和博君

欠席議員(なし)

欠 員（2名）

事務局出席職員職氏名

事務局長 井上 和広君 主幹 三船 史郎君

説明のため出席した者の職氏名

町長	……………	長崎 武利君	副町長	……………	吉村 隆信君
副町長	……………	福田 猛君	教育長	……………	宮川 優子君
総務課長	……………	中野 哲之君	政策経営課長	……………	太田 達也君
地域協働課長	……………	笠井与志則君	都市整備課長	……………	本田陽一郎君
上下水道課長	……………	森 一彦君	産業振興課長	……………	竹上 健君
環境課長	……………	安河内正路君	住民課長	……………	尾田 繁男君
健康福祉課長	……………	桐島 光昭君	税務課長	……………	高橋 忠久君
会計管理者	……………	末永富士美君	学校教育課長	……………	阿部 宏紀君
社会教育課長	……………	西田 大輔君	子育て支援課長	……………	大原 稲子君

午前9時30分開議

○議会議務局長（井上 和広君） 起立、礼。おはようございます。御着席ください。

○議長（北崎 和博君） 配付の日程表により、直ちに本日の会議を開きます。

日程第1. 第23号議案

○議長（北崎 和博君） 日程第1、第23号議案、平成30年度新宮町一般会計補正予算について議題といたします。

この件につきましては、付託しておりました総務建設常任委員会から、別紙のとおり報告書が提出されております。

総務建設常任委員長の補足説明を求めます。上畝地委員長。

○委員長（1番 上畝地 白馬君） それでは、報告いたします。総務建設常任委員会に付託されておりました第23号議案、平成30年度新宮町一般会計補正予算について、審査結果を報告いたします。

3月5日の総務建設常任委員会におきまして慎重審査の結果、全員賛成で原案を可とすることに決しました。

補足説明をいたします。

本予算案は、既定の歳入歳出の総額にそれぞれ5億1,154万6,000円を減額し、歳入歳出の総額を歳入歳出それぞれ144億7,018万2,000円とするものです。

歳出の主なものは、2款総務費、ポータルサイト利用料667万円の増は、ふるさと納税でポータルサイトの利用が増えたことによるもの、8款土木費、公園整備事業費3億4,327万2,000円の減は、予算の前倒しによるものです。

また、10款教育費、施設整備工事費1億206万円の増は、特別教室の冷房設備設置によるものです。

歳入の主なものは14款2項5目1節社会資本整備総合交付金1億7,750万円の減。

21款1項3目1節公園整備事業債、1億5,970万円の減。

14款2項5目1節社会資本整備総合交付金1億1,499万4,000円の減。

21款1項3目2節社会資本整備事業債7,900万円の減などです。

委員会中に特筆する質疑はありませんでした。

以上、報告終わります。総務建設常任委員長、上畝地白馬。

○議長（北崎 和博君） 委員長報告に対する質疑を許可いたします。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（北崎 和博君） 質疑を終了し、討論を省略し、採決を行います。

第23号議案、委員長の報告どおり決定することに賛成の方は挙手願います。

〔挙手する者9名、挙手しない者0名〕

○議長（北崎 和博君） 全員賛成と認め、第23号議案は委員長の報告どおり可決されました。

日程第2. 一般質問

○議長（北崎 和博君） 日程第2、一般質問を行います。通告順に許可いたします。

通告1番、庵原伸一議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） おはようございます。5番の庵原伸一です。

新しい英語教育に人工知能、AIの導入はということでお尋ねします。

私たちの生活に活用が広がりつつある、人工知能、AIが英語学習の現場でも取り入れられようとしています。

人と機械、それぞれが注力できる分野で役割分担が進むというのです。それにより教員の指導や、役割や質も変わろうとしています。

これはもう新聞の記事からですけど、本町も4月より、小学校3年生から6年生で英語教育が始まるが、対話的な英語教育を行うためには、特に小学校では講習や会話練習で教師をサポートする必要があると指摘する声などがある。

AIロボットが対話の相手として教師の役割の一部を行うことで、子どもの会話の機会が増えることが期待されると思うが、次のことを伺います。

1点目、AIロボットを導入し、週2度の英語教育をしている自治体がある。AIロボットに続いて児童が発声し、発音や抑揚をつけて話したことをロボットがチェックするなど、日常的に英語に触れる機会やAI技術にいち早く触れる機会になると評価されている。

次のことについて町の見解をお伺いします。

2点目、英語教育では読む・聞く・話す・書くが重視されており、他自治体では教員にかわって、生徒の聞く・話すの学びを補助するAIロボットが活用されているが、試験導入の考えはないかお伺いします。

○議長（北崎 和博君） 教育長。

○教育長（宮川 優子君） はい。それではお答えをさせていただきます。

まず1点目の御質問の前に本町の取り組みの現状について申し上げたいというふうに思います。

小学校では、御承知のとおり2020年度からの新学習指導要領完全実施に向けまして、その移行期間として本年度は三、四年生で本町年間15時間の外国語活動、五、六年生で50時間の外国語科授業を実施いたしました。

次年度は、本格実施が2020年度ですけれども1年間前倒しをしまして、小学校三、四年生は35時間の外国語活動、小学校五、六年生は年間70時間の外国語科授業を実施する予定でございます。

事業実施に当たりまして本年度はALT2名を配置しまして、小学校では年間965時間、次年度は時数も増えますので、ALT3名体制による配置で本年度に比べまして約500時間の増を予定しております。

このほかにも語学指導員による支援や地域の英語ボランティアの方々にも御協力をいただきながら授業を進めているというところでございます。

同時に、小学校教員の英語力・指導力向上研修ですとか、小学校英語体制整備事業、また、外国語活動中核教員養成講座などもございますし、町の研修事業の一環といたしまして、外国語活動の授業の研修等にも取り組んでるところでございます。

本町の子どもたちの状況を見ますと、外国語活動、あるいは外国語科に対する興味・関心は高く、意欲的に授業に臨んでいる状況にあるというふうに捉えております。

質問の一つ目にありますAIロボットを活用した英語学習についてということですが、既に神奈川県相模原市ですとか、あるいは埼玉県戸田市、また福岡県内では大牟田市小学校においてもそういった事例が報道されておまして、このAI時代の新しい学び方として注目されているというところは承知してるところでございます。

確かに人型ロボットという媒体を活用することで、子どもたちの興味・関心は高まるだろうと。

それによる教育効果もあるというふうに思いますけれども、現段階では今後の実証研究ですとかあるいはプロジェクトの進行をもとにまだまだ考査する段階にあるというふうに考えております。

教育におけるA Iの活用っていうのは本当に多くの可能性を秘めておりまして、今後10年後、20年後には教育における活用場面も飛躍的に拡大するのではないかというふうに思われますけれども、このことは同時に、そこで育成すべき資質・能力をどのようにA Iの進化に委ねるのかなど、これからの公教育のあり方そのものにも関わる課題ではないかなというふうに捉えております。

そういったことから、新宮町としましては、A Iロボットの価値は認めるものの、町内の小学校に導入するにはまだ時期尚早というふうに考えます。

まずは外国人の外国語指導助手人による人と人とのコミュニケーションの楽しさを味あわせ、子どもたちの資質能力を高めていきたいと考えているところでございます。

2点目の質問でございますが、A Iロボットが活用されてるが試験導入の考えはないかという部分、ただいま申しあげましたこととまた重複する部分も出てくるかと思いますが、新学習指導要領における中学年の外国語活動ではコミュニケーションを図る素地となる資質・能力、そのことを聞くこと、それから話すことにおけるやりとり、話すことにおける発表、その3領域で外国語を通して言語や、また文化について体験的に理解を深めると。

そして日本語と外国語の音声の違いに気づいたり、自分の考えや気持ちなど伝え合う力の素地を養うこと、また相手に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うということを目指しております。

伝え合うと言ったり、あるいは、相手に配慮しながらと、相手があるということが前提でございます。

また、高学年外国語科におきましては、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を聞くこと、読むこと、話すことにおけるやりとり、話すことにおける発表、そして書くこと。

この5領域で言語活動を通して育成するということになっております。

中でもこのコミュニケーションにおける見方、考え方のうち、外国語やその背景にある文化を他者とのかかわりに着目してとらえる点を重視すべきであるというふうにされております。

そこをしっかりと見ていかなければいけないというふうに思っているところです。

そのために本町で共通に作成しております外国語教育カリキュラムを元に、文科省が配布する教科書あるいはデジタル教材等を活用した丁寧な授業づくりに努めるとともに、先ほど申しあげましたA L Tの配置時間を増やすこと、あるいは英語ボランティアとのかかわりを深めるなどの

対応を今考えて進めてるところでございます。

その上で、小学校における外国語活動、外国語科の指導上の課題を整理し、その課題を解決するための手だてを長期的ビジョンを持って明確にしていきたいというふうに考えてるところでございます。

そこで先ほど申しあげましたようにA Iロボットの教育効果には期待もしておりますけれども、こういった定められた目標達成のためにはまずは人と人とのコミュニケーション、他者とのかわりを重視した内容、そういったものをベースに考えていきたいというふうに思いますし、A Iロボットを活用した事業につきましては今後様々な環境整備も必要であるというふうに思いますので、今後可能であれば大学等研究機関のサポート、そういったところも含めながらえる必要があるかというふうにと思いますが、現時点では試験導入の考えはございません。

しかしながら、今後の進化の過程をしっかりと注視していかなければいけないというふうに考えてるところでございます。

以上です。

○議長（北崎 和博君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） 1点目については時期尚早というふうな回答であったように思います。

今回の質問は教育長のほうでも言われましたように、埼玉県の戸田市の事例でさせていただいております。

埼玉県の戸田市の授業の風景が去年の末に民放のほうで放映されて、その中で、五、六人のグループで1台のA Iロボット「ミュージオ」ってということで、民間と連携した部分で、英語学習がされてあったわけですけど、非常に子どもたちが楽しそうに、いわゆるゲーム感覚とかというような形でロボットを見ながら、例えば、先ほど教育長が言いましたようにコミュニケーションというふうな授業で、たとえば生徒がまず、「ええと、何だっけ」とかいうような生徒が言葉に詰まると、机の上に置かれた高さ20センチの白いロボットが「トライ、アゲイン」とかですね、そういうふうに促して、生徒がわかったとか。

「ハウ、ワズ、イツツどうだった」というようなロボットが逆に今度は「ベリーグット」と応じて児童は「やった！」と声を上げて非常に楽しそうに英語授業風景が出ておりますので、私としては今後こういうふうなことも今A Iとは日常茶飯事に出てくる言葉ですけど、自治体による英語学習が導入したことで、児童生徒から、先生よりも気楽に話せたとか、そういうふうな会話の練習がしやすくなった等肯定的な感想が多かったそうですが、A Iロボットの活用は時期尚早ということがあれば、教育長が非常に教育熱心ですので、それ以外に今いろいろ、言われましたけど、何か独自の英語学習とか今後何かこういうやり方で、やっていきたいというふうな考え等

があれば、ぜひ、お聞かせ願いたいかなというふうに思います。

2点目の試験導入の考え方ですけれども、人が相手だと発声練習が恥ずかしくてできないと。

ロボットが相手なら気兼ねなく練習できるのではないかということで、この、「ミュージオ」一台10万円ぐらいだそうですけど、私が調べたところ、奈良県の一部の中学校では試験的に1台、導入してですね、いろいろやったところ、好評であれば導入しようかなというような、考え方もありますので、必ずその、1小学校に1台とかいうのではなく、とりあえず、高いかわかりませんが、こういうふうなAIロボットがありますので、もう一度何かそういうふうなこと1台買って試験的に考えてみようかなというお考えが無いか、再度、お伺いします。

○議長（北崎 和博君） 教育長。

○教育長（宮川 優子君） 最近では随分と感情表現とかですね、あるいは社会的スキルを備えた最新ロボットも実用化の段階に入ってるというところで、いろんなもので環境教育をめぐる環境も変わっていくのかなというふうに思いますけれども、先ほども申し上げましたように私はこの外国語活動あるいは外国語科のねらいの中です、やはりその背景なる文化をしっかりととらえる、あるいは他者とかかわりに着目するとか、そういったあたりのねらいは非常に重要なことで、日本だけではなくて外国の方とつながるという意味においてもですね、外国語科のコミュニケーションを通して世界を知る、あるいは繋がる、あるいは理解を深める、そういった意味では非常に大事な内容だというふうに思いますので、町としてもしっかりと効果的な指導を詰めていきたいというふうに思います。

新宮町ならではのというところでの最初の御質問だと思いますが、私は今のところその特別なことは考えておりませんが、手元に持ってきております、3年生から6年生までの町独自のこういった年間指導計画活動、それぞれ月ごとに時間ごとに詳細なものを各学校先生方に作成をさせていただいております。

これをもとに子どもたちがより効果的にコミュニケーションを楽しみ、あるいは使えるようにしていくという指導を図っていただくわけですが、少なくとも、これは年間指導計画全体がありますが、今後は新宮町の重点的な内容、この内容については新宮町は重点的にこのコミュニケーション力をしっかりと使いましょうと、どの小学校においてもどの学年においても、3年生から6年生までですね、そういった重点化というところですね、一つ頭に置きながら指導の徹底を図る、あるいは子どもたちの意欲を高めるというところで、今後いろいろと検討していきたいなというふうに思っているところです。

試験的についでいう部分は非常に魅力的ではありますが、中途半端な入れ方はできないというふうに思うんですね。するのであれば長期的な、先ほど申し上げましたけどもビジョンをもって、このロボットを1台入れることの意味っていうものをやはり各学校で先生方がしっかりと納得し

理解した上じゃないと入れられないし、先ほど言いましたように今まだ始まったばかりですけども指導を通して、その指導上課題が何なのかっていうのですね、今年度の課題また整理し、また次年度につなげていきたいというふうに思いますが、現場、先生方からやはりこのコミュニケーションの徹底を図るのにぜひこういった人型ロボットが必要だという声が上がってくれば、そこはしっかりと検討していきたいというふうに思いますが、まだその段階にはないということもございまして、まずはこのカリキュラムのもとにきちんと指導していただくと。

中途半端という言葉も余りふさわしくないかもしれませんが、入れるのであればですね、しっかりとビジョンを持って、徹底したやり方をしていきたいと考えてるところです。以上です。

○議長（北崎 和博君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） 1点目の埼玉県の前橋市については2017年から小学校と中学校に1個ずつ導入し、先ほど教育長が言われたように、ALTについては1人の教師を雇ったと、この資料の中でですけど500万ぐらいかかると、いろいろな中身で検討をされてALTの教師というよりも、この最終的にはAIロボットのほうがいいというふうなことで、2019年度から2人に1台というふうなことで導入し、学習が開始されるということで、前橋市については小学校については12校、中学校6校、今年度から議会のほうのほうの協力を得てやっていくという方針が既にできているということは、それだけいろんなところでそういう調査されて、前橋市というのは、こういうものが、ALTに代わるに相応しいのじゃないかということで導入が決定されるという、私は信じて、一般質問をさせていただいています。

2点目の試験導入については、先ほども言いましたように、いろんな形でいきなり導入するというのは、教育長、難しいと思いますけど、教育現場のほうとして、人型ロボットで簡単に話かける。

で、それに対する聞いたり話すというふうなことであれば、とりあえず、そういうふうなことで導入し、どういうふうな形での会話とか学習に役立てればいかなということ、いきなり学校にするのではなく、先ほども言いましたけど、奈良の中学校のほうでは、そういうことも含めて、導入の検討とかいろんなことをされておりますので、お伺いしたというふうなことです。

私も昨年、外国語について教育長に質問しましたが、その議会だよりの中身について英語学習は小学校で授業させいただきましたし、我々の時代になような授業学習だということは十分認識しておりますけど、先ほど言いましたように民放でも取り上げて、非常に楽しい学習風景で子どもたちがロボットに向かっていろんなことを聞くと、ロボットが英語で、今、日常的に通用するような話をしておりましたので、教師のほう負担にならない、いわゆる1人の先生で30人、40人も見るのは大変だろうし、その発音等については、こういうふうなことを活用していくという時代ではないかなということ質問させていただいております。

で、そういうことも含めましてから、今年から正式に英語が始まっていくわけですけど、教育長が言われるように大変でしょうけど、こういう英語教育について、教育長の教育方針とかというのは非常に新宮町の成績伸ばしていくというようなお考えも持ってありますので、一度この、埼玉県の戸田市とかいうのをですね調査、研究していただいて、先ほどALTに代わってでも、こういうロボットを活用したほうがいいのであればですね、一つ調査研究していただきたいかなと思いますけど、ちょっと調査研究をしてみようかなというお考えであればちょっと最後のほうにお伺いしたいと思います。

試験導入については、そういう中で、試しにやってみたいということがあればですね、ぜひ、取り入れてもらいたいかなと思いますけど、調査研究とそういうようなことがやってみようかなという考えがあるかどうか、ちょっとお尋ねします。

○議長（北崎 和博君） 教育長。

○教育長（宮川 優子君） 子どもたちが非常に目を輝かせて、そういった活動に取り組む姿っていうのはいろいろ報道でも見させていただいてますので非常に興味深く見させていただいてるところです。

今後、AIというのは常に進化していきますし、とどまることを知らない。

今、あるものが、次の年度にあるかどうかっていうのわからないような状況でございますが、長い目を持ってこういった進化の姿という部分にも視野を広げながら調査するとまでは言えませんが、関心を持ちながらしっかり私も学んでいきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（北崎 和博君） 庵原議員。

○議員（5番 庵原 伸一君） いよいよ正式に英語教育が始まりますので、ぜひ、いろいろな分野でAIの活用とかいうのが出てくると思います。

そういうことも含めまして、ぜひ教育長の、全国的にも学力というのは非常に良いと小中学校とかいうふうにも聞かしていただいておりますので、そういうところでこういうのが活用して、新聞で出た生徒については英語の発音とか、そういうのは、正しい発音で良い学習をやってるなというふうなこと。

ぜひ言われるような方法にしていきたいというふうに願って一般質問を終わります。

○議長（北崎 和博君） 通告2番、大牟田直人議員。

○議員（6番 大牟田 直人君） 6番議員の大牟田です。

今日は、SDGs(持続可能な開発目標)の理念に沿った取り組みの推進をという質問させていただきます。

誰一人とり残さない持続可能で、多様性と包摂性のある社会の実現のため、2015年9月の

国連サミットで採択されたSDGs、Sustainable Development Goalsの略ですね、持続可能な開発目標の略になります。

2030年を年限とする持続可能な開発目標であり、国際社会の共通の目標であります。

そして、世界中でその実現に向けた取り組みが進められています。

SDGsは、17の目標、

貧困をなくそう。

飢餓をゼロに。

すべての人に健康と福祉を。

質の高い教育をみんなに。

ジェンダー平等を実現しよう。

安全な水とトイレを世界中に。

エネルギーをみんなにそしてクリーンに。

働きがいも経済成長も。

産業と技術革新の基盤をつくろう。

人や国の不平等をなくそう。

住み続けられるまちづくりを。

つくる責任つかう責任。

気候変動に具体的な対策を。

海の豊かさを守ろう。

陸の豊かさも守ろう。

平和と公正をすべての人に。

パートナーシップで目標を達成しよう。

といった17の目標ですね。17目標とそれに付随する詳細な169のターゲットで構成されています。

現在、その理念を施策や事業に取り入れる地方自治体や民間企業も増えてきています。

そこで、次のことを伺います。

一つ目ですね、本町において、今後の施策や総合計画の策定にSDGs技術を取り入れる考えは。

二つ目になります。子どもたちを含む町民がSDGsの基本的な考え方を理解することは、支え合いのまちづくり、協働のまちづくり、持続可能で多様性と包摂性のあるまちづくりにつながると考えます。

社会教育や学校教育において、SDGsを広める取り組みはできないか。以上2点についてお

伺います。

○議長（北崎 和博君） 町長。

○町長（長崎 武利君） はい、お答えをさせていただきます。私も議員をいたしております以前からですね、持続可能なまちづくりっていう中で新宮町はまちづくりをしてきております。

平成13年度から平成22年度までの10年間を計画期間といたしました第4次新宮町総合計画におきまして、「つなげよう次世代へ、環境共生と生涯学習のまちづくり」を基本理念として掲げ、当時、SDGsの考え方がない時代に先進的に持続的発展を目指し、基盤整備などに取り組んでまいっております。

平成23年度から平成32年度までの第5次新宮町総合計画では「人が輝き快適に暮らせる元気なまち新宮」を町の将来像に掲げ、まちづくりを進めております。

SDGsという文言は入っておりませんが、その理念の一つ、一つが、行政目的に合致しております。

本町のまちづくりの基本理念であります、人にやさしいまちづくり、そして環境共生のまちづくり、協働で拓くまちづくりは、まさにSDGsに通じるものと思っております。

次期総合計画につきましては、20年から30年後の人口減少、超高齢社会を見据えました、これからの10年間のまちづくりの方向性や、目標を明らかにするために、昨年から計画に向けてさまざまな検討を行ってまいっております。

その方針をまとめましたものを第6次新宮町総合計画策定方針として、議員の皆様にもご覧いただいたところでございます。

議員、御質問の今後の施策や総合計画の策定にSDGsを取り入れる考えはということについてでございますが、この策定方針の中で、基本的な考え方に継続して本町が存続できるよう、持続可能なまちづくりをあげております。

この基本的な考え方にに基づき、住民アンケートや行政区ヒアリングの結果を踏まえ、SDGsの理念に沿った具体的な施策を取り組みを検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

2番目は教育長に答えさせていただきます。

○議長（北崎 和博君） 教育長。

○教育長（宮川 優子君） はい、それでは2点目の御質問にお答えいたします。

学校教育・社会教育において、SDGsを広める取り組みをということでございますが、日本ユネスコ国内委員会、運営小委員会におけるSDGsのターゲット4、教育に関する我が国の具体的施策を見ますと、夢をつなぐ子育て支援や特別なニーズに対応した教育の推進や、男女共同参画を推進する教育・学習の機会の提供など12の施策が掲げられておまして、これは学

習指導要領にも反映をされているところでございます。

特に中学校の社会科、公民的分野を例に申し上げますと、持続可能な社会の実現を目指して、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成していくということが重視されておりまして、そのために必要な資質・能力の向上を図ることが既に日常的な指導ですとか、あるいは体験を通して取り組まれているということをまず申し上げたいというふうに思います。

議員が言われるSDGsを広めるということは学校教育、社会教育いずれの分野におきましても、その基本的な考え方を知識の伝達だけではなくて、十分な理解とあわせて共感だったり、あるいは感動であったり関心であったり、そういったものを伴うべきであるというふうに考えますし、そこには価値観ですとか、あるいは行動の変革という部分も求められるところでございます。

確かにSDGsの認知度というのはですね、まだまだ低いのが現状ではないかなというふうに思いますけれども、既に開発目標をターゲットに関連した取り組みも多くございます。

またグローバル・シチズン・シップ教育、いわゆる21世紀型のスキルの取得に係る教育も、示されておりまして、行動的な市民となることや、あるいはコミュニティとのかかわりなど、さまざまな課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組む、そして持続可能な社会づくりの担い手を育成することが目標とされています。

そういったことから議員が言われるSDGsを広める取り組みにつきましては、新たな取り組みというよりも、まずはこれを特別なものとしてはなくて、自分事としてしっかりととらえると、そしてそれぞれの活動や生活の中に浸透させていくということが大切であり、学校教育、社会教育を通して、先ほど申しました共感・あるいは感動、関心を伴う取り組みをより充実させることに努めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（北崎 和博君） 大牟田議員。

○議員（6番 大牟田 直人君） 先ほどの私の質問の中で言いましたように、多くの自治体や企業でSDGsというのは、取り組まれるようになってきています。

先ほど町長がおっしゃったように、新宮町の施策がSDGsに沿ったものであるというのは私も理解しています。

ただ、それをこの国連が決めたこの17の目標ですね、この目標に向けて新宮町はこんな取り組みをしてるんだよっていうのを示していくことが、町民がですね、持続可能なまちづくりを僕たちも担っているんだ、私たちも担ってるなっていう思いが浸透していくことにつながって、より今、協働のまちづくりがとて進んでるとは思いますが、より進んでいくんじゃないかなと思っています。

たくさんの自治体で今取り組みが進んでいます。

資料のほう、ちょっとご覧ください。

福岡市がですね、SDG s の推進についてということで、進めています。

2 番の今後の取り組みのところにありますように、総合計画の施策とSDG s の17項目目標の関連性を整理したっていう素案を各局区室に紹介するという。SDG s の今やってる施策ですね、今やってる施策がSDG s の17の目標のどこに当たるのかっていうのを一度整理しようという取り組みが出されてます。

次のページともう一個次に行ってもらってもいいですか。

これは尼崎の例ですけど、尼崎市は総合計画における施策をSDG s のどの目標に当たるかっていうのを示しています。

また、次のページですけど、逆も示しています。

SDG s の目標に対して今こんな総合計画の中でこんなことやってますよっていうのを示しています。尼崎市ですね。

また、福岡県の環境総合ビジョン「経済成長と環境保全が両立した持続可能な社会へ」という第4次福岡県環境総合基本計画の中でも、総合計画と環境総合ビジョンに対するSDG s のどのゴールと関連しているかっていうのを表で示しています。

なので、今やってる施策がSDG s のゴールにつながってるよ、どこにつながってるよっていうのを示しているんですね。

これをすることによって、この17のゴールをみんなが進めていこうという思いっていうか、意識が浸透していくというかね、もちろん今もやってやられてるんですが、その意識をいろんなところに浸透させて、波及させて、私たちが持続可能な社会の担い手なんだっていうのをみんなの意識の中に育てていくという、そういう効果があるのではないかと思います。

新宮町でもぜひ総合計画の施策とSDG s の項目をリンクさせたような、こういう表とかそういうのを作成できたらいいんじゃないかなと思います、それについて見解を。

○議長（北崎 和博君） 町長。

○町長（長崎 武利君） このSDG s、これはやはり国連のサミットで採択されたということで、発展途上国等を勘案した一つのこの、サミットでの採択じゃないかなと。

しかしながら、やはり先進国でも、やはりこれに基づいて、この国づくり、また、まちづくりをやっていかないといけないと。

17の目標につきましても、やはり政令市、また、私たち町村と、いろんな、その幅がいろいろあるようでございます。

17の目標の中で、どれだけ新宮町がこれから先しっかりと、これにとらえてSDG s をしっかり、まちづくりに加えていくかっていうようなことをですね、ちょうど幸いにしまして、第6

次総合計画、今、これからたてさせていくわけですので、この前2月27日、北九州市のこのSDGsの展望という新聞記事もちょうどありましたので、いろいろこれも読ませていただいて、やはり北九州市もこれからそういったSDGsに基づいた市づくりをやっていくというようなことですので、新宮町といたしましても、そういったことに基づいて、しっかりと計画を立てていきたいというふうに思っております。

○議長（北崎 和博君） 大牟田議員。

○議員（6番 大牟田 直人君） 新宮町もこれからの総合計画の策定に入りますので、そのときにSDGsのことを考えていただけるということで期待をしております。

それが町民の持続可能なまちづくりへの思いだったりとか、協働のまちづくりの思いだったりとかにつながっていくんじゃないかなと思っています。

先ほどの教育の話ですね。先ほど教育長がおっしゃられたように、持続可能なまちづくりについて、持続可能な社会の実現の担い手を教育するっていうことについて、今、中学校だったり、公民の時間だったりとかに行われているというのは私も承知しております。

その持続可能な担い手となる子どもたちにこの17の目標を意識するっていうことが、もっと持続可能な担い手なることに対しての意識づけに繋がるのではないかなと思っています。

例えば、社会教育だったり、学校教育の現場で今やってることで、17の目標にはどうつながってるだろうとか考えたり、17の目標を達成するために私たちにできることは何だろうとか考えたりすることがですね、そういう持続可能な社会の担い手づくりにつながるのではないかなと思います。それについて見解を教育長にお伺いします。

○議長（北崎 和博君） 教育長。

○教育長（宮川 優子君） なかなかその認知度が低いっていうところでこういった目標をしっかりと子どもたちに伝えると、理解を求めるということは大事なことであるというふうに思いますけども、先ほども申しましたように、この目標の中には既に取り組んでる内容もあるので、自分たちが今やってることはこの目標のここに当たるんだっていうようなところをつなげて、子どもたちが自分事としてとらえることができれば、それはとてもいいことではないかなというふうに思いますし、具体的に申し上げますと、飢餓をゼロにという二つ目の目標ございますけども、やはり自分たちが本当に食品を大事にしているのかと、食品ロスを解消する取り組みはどうなってるのかっていうようなところに関心を高めるとかですね。

あるいは町のほうでもコミュニティスクール取り組んでおりますけれども、こういった中では住み続けられるまちづくりをという11番目の目標ございますね、こういったところ、既に自分たちがやってる取り組んでるところと、この目標とつないで何かの機会にしっかりと啓発をするというところは大事なことであろうというふうに考えております。

○議長（北崎 和博君） 大牟田議員。

○議員（6番 大牟田 直人君） この17の目標と、今自分たちが取り組んでいる活動に対してのつなげて考えるということは素晴らしいことだと思います。

ぜひ進めて、機会があるときにそういう取り組みをしていただけたらと思います。

SDGs、この17のゴールが明確にわかりやすくなっているのも、このゴールをみんなが共有するというか、認識することが、本当にみんなが支え合ってみんなが幸せになるような、社会づくり、まちづくり、世界づくりは地球づくりっていうか、そこにつながっていくんじゃないかなと思っています。ぜひ、SDGsを施策だったりとか教育だったりとかに取り入れていただいて、今後の明るいまち、未来も輝く新宮町、つくっていただけたらと思います。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（北崎 和博君） 通告3番、上畝地白馬議員。

○議員（1番 上畝地 白馬君） 1番議員の上畝地です。

本日はダイバーシティ（多様性）社会への対応はについて質問をさせていただきます。

本町は人口増加率が全国一位になるなど、町内外から活気がある町と認識されている。

今後も、流入人口が増加することが予想され、本町がさらに飛躍するには、性別、人種、国籍、宗教など、人の多様さだけでなく、働き方や教育の多様さが認められる社会、いわゆるダイバーシティ社会に対応する必要があると、さまざまな働き方や、学校でできない地域教育を促進し、次の時代に備えなければならないと考える。

そこで、以下のことについてお伺いします。

1、仕事と家庭や趣味などの生活の調和、ライフワークバランスの実現に向け、仕事の効率化のために人工知能を活用するなど、働きやすい環境を整備することはできないか。

2、学校で習うことができない教育を企業などと連携して地域で行うプログラミング教育などの推進は、以上、質問をさせていただきます。

○議長（北崎 和博君） 町長。

○町長（長崎 武利君） お答えさせていただきます。

ダイバーシティとは多様性という意味でございます。

ダイバーシティ社会とは性別や国籍、人種、宗教、年齢、障害の有無、性的指向などにかかわらずその多様性を認め合い、だれもが排除や孤立させられたりすることなく、社会の一員として支え受け入れることであると認識をしております。

また自治体におけますダイバーシティ社会とは、住民の多様性が尊重され、個々人が地域社会の中で、だれ1人取り残されることなく生きていくことができる社会であると考えております。

そこで議員質問の仕事の効率化のために、人工知能を活用するなど、働きやすい環境整備する

ことはできないかについてお答えをいたします。

近年、本町は著しい発展を遂げまして、人口も急激に増加をしてきました。

そのような中、職員1人当たりの業務の負担は年々大きくなっております。

超過勤務時間の増加に加えまして、年次休暇の取得率も低迷をしているような状況でございます。

国も働き方改革を進める中で、仕事と家庭のライフワークバランスを実現するためにも、私も近い将来には行政の中で多くの事務処理をロボテックと人工知能が受け持つことになるのではないかと考えております。

その一端といたしまして、昨年12月に庵原議員から質問がありましたRPAの活用につきまして、その有効性について注目をしているところでございます。

現段階で本町に当てはめてみますと、大幅な時間と経費の削減にはつながらないものと考えていますが、今後の人工知能技術の進展に伴いまして、より効果的なシステムが出てくることも想定されますので、引き続き注視をしていきたいと思っております。

また、導入に当たりましては、本町の事務事業全般に渡って、BPRビジネスプロセス・リ・エンジニアリングの手法を活用した業務フローの見直しやICTの活用について、検討し整理する必要があると思っております。

ITの進展につきまして、先ほどの人工知能AIロボット等ですね、これから先しっかりとそういう面を調査研究をしっかり行って行って、遅れないように取り組んでいかなければいけないと思っております。以上です。

2番目につきましては、教育長に。

○議長（北崎 和博君） 教育長。

○教育長（宮川 優子君） はい。それでは2点目の御質問にお答えをさせていただきます。

学校ではできない地域教育の促進についてということでございますが、御承知のとおりコミュニティスクール推進におきましては、地域とともにという視点は当然重要であり、本町においても家庭地域との連携強化のもと、夏休み寺子屋事業では福岡工業大学と連携し、出前授業を実施するなど、校区の特色を生かしたさまざまな取り組みが進められてることは議員も御承知のことというふうに思います。

先日は地域の教育力を生かすという点から福岡工業大学において6年生児童を対象にしたICT体験授業が実施されました。

教育の多様化の一環として、大学での専門教育とそして地域の課題解決、その姿が見られまして非常に心強く思ったところでございます。

次年度はこの取り組みをさらに他校にも広め充実させていきたいというふうに考えてるところ

でございます。

議員お尋ねの企業などと連携した地域で行うプログラミング教育の推進についてでございますが、次期学習指導要領が2020年度以降の小学校におけるプログラミング教育の必修化が盛り込まれておりますが、そのことを通して、子どもたちの論理的な思考力、あるいは問題解決型の思考をしっかりと鍛えると。

そして論理的に考える力の育成を目指すというものでございまして、教育委員会におきましても、あるいは学校現場におきましても、その準備のための研修ですとか、あるいは環境整備計画を立てているところでございます。

一方、民間企業では、さまざまなアプリを開発したり、あるいはセミナーを実施するなど既にさまざまなメニューによるプログラミング教室も多く見られるようになりました。

これからはこのプログラミング教育が学校の施設設備を用いた教育活動だけではなくて、人的資源あるいは情報資源、物的資源を学校外からも取り入れ、その成果を地域住民や社会教育にもアウトプットしていくようなシステム構築が必要であるというふうに考えます。

社会教育課におきましても、これは企業との連携ではございませんが、団体ですとかあるいは個人と連携した地域プログラミング教育の一環として、親子で積み木遊び、あるいは親子で絵具遊び、親子で英語ごっこなどの教室を開設しておりまして、民間団体との連携や官学連携につきまして少しずつではありますけれども進めているのが現状でございます。

これからもさらなる情報収集をしてどのようなプログラミング教育が実際に実施できるのか。

また、その実施方法として、現在町で行っている出前講座等での実施が可能かなど、さまざまな視点から検討し、今後の取り組みの方向性を探りたいというふうに思っております。

さて、中教審答申ではコミュニティスクールの仕組み等を利用して活用して多様な専門性ですとか、あるいは経験を持つ人材等との連携協働によって、家庭や地域社会を巻き込んで教育活動を充実していくと、つまり社会に開かれた教育課程の実現が大切にされております。

地域が学校のパートナーとして広く子どもの教育にかかわる当事者として、子どもたちの成長をともに担っていくことが必要だというふうに述べられているところでございます。

まさにこのことはダイバーシティ教育の考え方ではないかなというふうにもとられているわけでございます。

そこで議員御指摘のプログラミング教育それだけではなく、子どもたちにとって必要な教育内容につきましては資源や情報などを地域社会と相互活用していく、いわゆるオープンシステムの仕組みを整え、あるいは既存のいろんなものを活用しながら新宮町の教育の充実にしっかりと努めてまいりたいと考えてるところでございます。

長くなりましたが以上です。

○議長（北崎 和博君） 上畝地議員。

○議員（1番 上畝地 白馬君） はい。まず1問目のところですが、私が言うまでもなくですね、これから機械的な作業はもう人工知能に任せていかれるっていうのは、もう、以前から私がずっと言い続けている内容でもありますし、されるのではないかなっていうふうには思っております。

ダイバーシティって言われる流れはですね、主に今ですね、大都市圏東京、大阪、名古屋、福岡とかを中心にダイバーシティで社会を進めていこうというところと言われております。

大都市圏でするですね、ダイバーシティのあり方っていうのはですね、直接新宮町にはなかなか難しいのではないかと、スケールメリットも全然違いますし、外国人とかですねそういう、流れもですねなかなか新宮町の風土とかそういうのに合わないのかなと。

私が言ってるですね、ダイバーシティというのは、あくまでも思考のダイバーシティ、考え方のダイバーシティっていうふうには思っております。

私が考えるダイバーシティの本質は、多様な視点から新しいものの見方をし、これまで解決できなかった問題を新しい解決方法で解決するということですね。

もう一つは、多様な視点から全体最適化を目指すと。

この概念をお伝えするのがなかなか事例が難しく、いろいろ考えてたんですが、私が経験した独身時代から結婚して時代が変わって、いろんな経験をした内容をちょっとお話をさせていただきます。

町長も、私の両親と同じぐらいの世代でいわゆる高度経済成長で進んで、日本のここに進むぞっていうところがわかって、三種の神器とか一戸建てが欲しいとか、そういう時代の流れで進んできました。

その時はすごく画一性が重要で、人を分ける、例えば男女を分けたりとかですね。

あとはブルーカラー、ホワイトカラーと分けたり、そういうのは人間に理解しやすく、すごく効率的なんですね。

流れ作業で結構できたりとか、そういう画一性が今まで日本でやってきたところで、うまく時代にも合い、いい結果が出てきたのではないかな。

先進国になり、なかなか参考にする国がないというところで、これまで何かを目指してやってきたっていう画一性で進むことがなかなか難しくなってきたというふうに私は思っております。

そこで、この多様性っていうのが出てくると思うんですが、まず私が育った時代は、町長ぐらいの親がいて、男は仕事、女性は家庭みたいな感じで進んできました。

私も独身時代は仕事を一生懸命頑張って、家に帰ったらちょっとゆっくり休暇をとるという形で思っていました。

しかしながら、結婚をすると時代がどうも変わったみたいで。

やっぱり奥さんが食事の時に何かそういうのはちょっと違うっていう話をしだしまして、それがどういふことかなっていうのが全然わかりませんでした。

その頃、女性の社会進出とか、そういうことが叫ばれていて、時代がどう変わったのかなっていうのはわかりませんでした。

P T Aを私は3年間させていただいて、P T A会長もさせていただいて、そこで数多くのお母さん達とお話をさせていただきました。

お母さん達は昼間、ランチ会をやっておりまして、そこでいろんな情報交換をしております。私もちょっと来ませんかっていうことで、会長来ませんかということで参加させていただきました。

そしたら、お母さん達は地域の話、学校の話、いろんな話をしております。

最後にちょっとこれが男にはきついんですが、御主人の話をされます。

御主人の話をされて、うちの主人はここまで家事のことをするとか、そういった話をします。

そこで何かある程度の全体の平均値みたいなことを、どんだけお手伝い、協力的なことをしていただけるかというのを知りまして、そこでこういう世界があるんだなというふうに思いました。

私はもう以前から父親に習った家庭の育ち方をして、そういう家庭が正しいんじゃないかなというふうに思って育てておりましたが、実際結婚したら、もう時代のちょうど変革期に当たって、そういった男の人も家のことをある程度協力していくという形です。

実際、そういう流れが来たので、自分も一生懸命家庭のことも一生懸命家事ももちろんしますし、教育についてもいろいろ子どもと向き合ってやってきております。

女性の方の特有な資質として、お話を聞いてくれるだけでいいみたいな、何か風潮が結構、全員ではないんですが、大体そういう流れが。

とりあえず聞くと落ち着く。聞いてくれるっていう、話を伝えるっていう意味が私にはわからなかったんです。

男としては解決方法を見つけるというのがわからなかった。

ずっとずっと考えると、例えば今日あったことを私に伝えるわけですよ。

今日あったこと、子どものことや地域のこと、そういうのを私に伝えて、私ができる範囲を手伝うということにつながるんですけど、結局、何もない時代からある程度いろんなものがある時代になると、もっと細かいところが気になるみたいで、例えば私にとって今のやり方がいいのか、子どもにとって今のやり方がいいのかっていうのを伝えているんですね、あれは。

僕はそう理解しております。

そこで、幸せな家族って私は自分の男の考え方、今まで育ってきた考えた方で仕事を一生懸命頑張って家族を養ってっていうふうに思っていたんですが、時代も変わって全然違う状況になっ

て、奥さんのこと、子どものことを考えなくてはいけないということで、それがいわゆるダイバーシティではないかなと。

子どもの目線で見たとときに、この家族はどうなのか、嫁さんの視点で見たとときにこの集団はどうなのかっていうのを考えながら生きていかなければいけないっていう社会だと思っています。

両方いただいて、奥さんとか子どもっていうのは、どうしても私に従属的ならざるを得ない。私が強く言えば、もうそれに従わなくてはいけない。

それだと私の考えだけでいってしまう。

順番としては弱い者からどうですか、どうですかって聞いて、そこでやっとはじめて全体の最適化がくるのではないかなというふうに思っております。

会社でもそういったいわゆる男社会で良しとされたことだけでは、それも大事なんです。

それだけではなく、その比率を同じようにしませんかということで、それで社会を全員が、全体にとっていい組織、全体にとっていい社会っていうのがダイバーシティではないかなっていうふうに思っております。

もちろん、そういうことはいろいろ考えられて、庁舎内でも若い人たちの現場の声とかも、こうしたらいいとかっていうのはいろいろ聞いてるんですが、なかなかそのやっぱり階層的なですね、そもそも行政の仕事って上からおりてきたものを実行するということがほとんどではないかなと。

なかなかその自由度は効きづらいということで、いろいろその例えば、家で活動する、趣味で活動する、地域で活動するっていうことを増やしていくといろんなことが見えてきます。

私も子どものことに携わって、数多くのことを学びました。

例えば、子どもの成長は今まで私が思っていたよりも若干遅く育てれば伸びが大きいっていうのにまず気づいた部分もあります。

身長にしても学業にしても何かそういう雰囲気があります。

あとは、子どもに勉強を教える時に個々、子どもの一人一人の認知の違いっていうのがすごくありまして、この子にはこう言うとうまくいっても、この子にはこう言ってもうまくいかない。

そういう認知の違いがあつてですね、そのいろんな心理学とかいろんな性格分析とかいろいろ調べたんですけど、大体10ぐらいあるっていうふうに言われております。

それに沿った伝え方をすると勉強をしてくれています。

私の子どもが今2年生で、次受験勉強で、3年生になるんで受験生なので、そこで勉強をどう教えようとか、家庭学習についてもいろいろ、秋田式のやり方だったりとか、また社会性で、友達を呼んで一緒に学習するとどうなるかとかですね。

また、その先ほど言ったその心理学的な精神分析の中からですね、こういう子にはこう伝えた

らいいとか。

今ですね、やっとそのうちの子どもには順序立てて進めていくっていうのがすごく有効なことであって。

競争させるとかでは全然だめなんですね。ほかの人がここなんで、これもうちょっと超えようとか全然だめで、順序立て進んでいくと今やっとなんかやってくれて、朝御飯食べながら私は採点つけてるんですが、そういうことがいろんな今学びがあります。

それはなかなかお仕事だけとかいうことではですね、なかなか見えてこない部分ではあるんじゃないかなと思います。

ダイバーシティを進めることについて、そういうのも多分うっすらと御存じではないかなというふうに社会の経験上ですね、思っていると思うんですが、それを強く意識して個々の人生についてどう幸せなのかをですね、職員さんいらっしゃると思うんですが、それについては考えて進めて行けば、みんなの幸せな人生というか、最適化、自分はこうしたいから仕事も頑張って何かも頑張るとか、何かを頑張ることで新しい情報がまた仕事のほうに入ってくると。

多様性の場合には情報を多く入れるということがすごく重要ですので、そういったことを意識しながらやっていただきたいというふうに思っています。

実際にやる流れとしては、先ほどの人工知能使って、人工知能5段階ぐらいあるんですが、大体今1段階、2段階の段階で機械的な事務処理ができるっていう段階です。

さいたま市だと思うのですが、富士通が開発して保育所の入所選考業務ですね、それがあって、だいたい職員の方が8,000名を20人から30人の職員の方が1週間かかる作業ですね。人工知能を使うとわずか数秒で終わるということで、圧倒的に早く終わる、新宮町はスケールメリットがちょっと少ないので、そういう大きなものはできないので、その導入資金とか、初期費用っていうのがすごく問題になると思うんですが、基本的に私がちょっと人工知能のプログラムは自分が開発したわけでもないのによく分からないのですが、大体プログラミングって、プログラムっていうのは、同じものを使うんですね。量に関係なく同じもの大体使ってるんですよ。

例えば8,000人解析しようが、100人解析しようが同じプログラムを使うとということですね。

で、いろいろ調べてるとやっぱり全部要相談になってるんですね。なので、うちの町ではこんぐらいしか、例えば費用対効果の出るラインがあると思うんですが、その辺をお伝えすると。

あとはですね、企業の方に面をとって行く。

ここだけね利益上げない、全体の面をとって、他の市町村たくさんありますので、そこでバッと一気に導入しやすいぐらいの価格設定、適正価格っていうのを御提示してですね導入すると、より低い価格で導入できて、皆さんの仕事の効率化が図れるのではないかなというふうに思っ

おりますが、いかがでしょうか。

○議長（北崎 和博君） 町長。

○町長（長崎 武利君） はい、以前の質問の中でですね、RPAの導入っていうようなこともあって、今これ導入してあるのが熊本県の宇城市あそこがちょうど災害がありましてですね、庁舎も崩壊したというようなことで、人口6万人ぐらいのところで、RPAロボテックを導入してありますけども、うちのほうもいろいろ指示をして、副町長から担当課長といろいろ調査をいろいろ精査させていただきましたんですが、うちの規模では今のところちょっと、それを入れてもなかなか効率的にいかないというところもありまして、先の保育園のですね、選別のそういったことも、テレビ等ですね、私も聞き及んでおりますが、そういったことも加味しながら、やはり事務の効率化、これにはしっかりと取り組んでいかなければ、うちが、職員数、平成17年から国が自治体に対しまして平均4.6%の職員を削減しなさいというような指令で職員をずっと平成17年から15人削減してきてきてるわけです。

それに今このように新宮町は人口増加も全国一というような中で、いろんな面で事業、議員さんももちろん御存じのように動いておりましてですね、職員も一生懸命頑張っていたいただいて、先ほど言いましたように、いろんな超過勤務とかいうことで、私もちょっと、職員には申し訳ないような気持ちでですね。

しかし、次、定員適正化等をですね、しっかり組んでやってきていたんですけど、ここにきてまた再議ですね、これからまた5年間の定員適正化も考えながら、そして今言われるような、あるRPAのですね、そういったものを導入しながらいくものかですね、しっかりそこは調査して進めていかなければいけないと今考えておるところです。

○議長（北崎 和博君） 上畝地議員。

○議員（1番 上畝地 白馬君） はい、ぜひ進めていただきたいと思います。

やはり、人工知能とかもですね、普及してくると必ず値段が下がるという、コモディティ化とかいうんですけど、なってきます。

それを待つというのも、もちろんありますでしょうし、先ほど言ったようにそれを前提としたこちらの提案で向こう側の企業を動かすというやり方もあると思います。

できるだけですね、少し早く、リスクが少ないところであればですね、ぜひやっていただいて、そのあとにまた出てくる問題をいち早く取り入れて進んでいくと進化するまちなって来るとはならないかなというふうに思っております。

で、それを進める後にですね、なかなか今の業務で慣れ親しんでいると、なかなかそういうデータ化っていうなかなか難しい。難しいっていう取り組みづらい部分もあります。

先ほどお伝えしたように、仕事だけではない他のいろんなですね、活動で活躍すると、そこら

辺も一緒に頑張るとワークライフバランスですね。そこら辺も頑張ってくださいというところで、なかなかは一職員の方が私それ頑張りますみたいなことはなかなか言いづらいというところで、社会で今ですね、出てきてるのがイクボスという概念ですね。

イクメンとかいう話があるんですが、それでイクボスという。

子育ても頑張るとリーダーっていう位置づけになると思うんですが、それを宣言してですね、会社だったり、自治体でもあります。

その子育てを頑張るっていうだけではないんですね。

仕事以外のものも頑張って、バランスをとって、私はやっていきますよっていう宣言をさせているところがあります。

そういったのをですね、こうオープンな、そういうのも言っているんですよっていう風土ですね、つくるのも一つの手ではないかなというふうに思っております。

1人がですね、一職員の方々って、私これしたいんですよと、もちろん仕事ばかり頑張る人でもいいんですけど、それ以外の方もいらっしゃるでしょうし、そういう流れが今の人工知能とかにつながってくると思うんですが、そういう町長もいろいろこう、公私ともですね、充実した生活をお送りしていただいているので、そういうのはですね、町長の口からで少し言っていただくと、その言いたい人は少し楽になるのかなと。

もうちょっと、今その、変えていくきっかけを待ってる人はですね、進みやすいのかなっていうふうに思っております。

そういう流れで、A I とかに事務的な作業を進めることを一緒にですね、進めてはどうかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（北崎 和博君） 町長。

○町長（長崎 武利君） 本当に今、新宮町はいろんな事務事業が他市町村に比べまして非常に私は多く、今、仕事をしているというふうに感じておりますし、また、職員もですね、そういう点ではもう本当に、この前も福岡工業大学の学生さんと一緒に松林の間伐もですね、これにも職員が出ていただいてですね、30数名出ていただいてやっていただいております。

そういった土曜、日曜日も限らずですね、時間外、本当に常日頃職員と私はコミュニケーションをですね、しっかりとっていかなければいけないと思ってやらせていただいておりますけどですね、これからまた新しく定員適正化計画をまた見直してやっていきますし、それとともにですね、やはり、今言われるような、ITを駆使してですね、事務の効率化にはしっかり取り組んでいかなければいけないと。

また、男女共同参画社会づくり、これにも前向きですね、今進めてきておりますしですね、女子職員もですね、本当に男性に負けないような仕事ぶりですべていただいております。

そういった状況でありますので、なお一層ですね、やはり職員のそういった、事務の軽減化に対しては事務事業が多い中でですね、しっかり取り組まなければいけないと肝に銘じております。

○議長（北崎 和博君） 上畝地議員。

○議員（1番 上畝地 白馬君） ぜひですね、次世代の多様化の流れから事務効率化を進めていただきたいというふうに思っております。

それでは2問目の質問で、学校で習うことができない教育、企業などと連携して地域で行うプログラミング教育の推進はっていうところなんです、地域でですね、企業連携して行う教育がどういうものかっていうのはなかなかこう、今までにない取り組みではあるかどうかと思っております。

町長、教育長も御存じのように私はですね、中央駅前地域ICTクラブというの進めております。

それはですね、企業と提供しまして、ノウハウと機材、お金は全部企業持ちです。

企業にパソコンを20台持って来ていただいて、サーバーも用意していただいて、子どもが使いやすいようにですね、マインクラフトというブロックを積むですね、ちょっと、子どもたちの中ではやってるゲームがあるんですが、そのマインテストというテスト版でいろいろ加工ができるんですね。

そういうものを用いて子どもに興味を持たせながらプログラミング行っている、なおかつプログラミングをオラクルっていう会社の資格を持っているすごい方に来ていただいているんですが、やっぱりその内容がすごく本格的で、そこまで行くのかっていうところまで教えていただいております。

1クール目が今を終わりました、2クール目の授業に入りまして、どんどん高度化をして関数だったりですね、その難しい概念がどんどん出てきておりまして、子どもたちはその概念的なものは理解してないんですが、なんかこう打つとこうなるよね、みたいのところまでは進んできております。

ずっと企業の方に来ていただくのはちょっとですね、向こうの負担にもなりますし、将来的には、今やってるのがメンターという助言者っていうのを置いてですね、それが保護者だったりとかいう最初の設定で保護者にも来ていただいているんですが、保護者が見守って勉強を促す。あくまでも促す。

勉強自体は学び合っていうか、やり方をやっております。

学び合いというのは得意な人が出てくると、その人が子ども達に教えるっていうやり方ですね。今まで学校がやってる、先生がいて子どもいてっていうやり方ではないんですね。

なので、得意な人が行くとそれに引っ付いて、リーダー的なやつが進んでいくというやり方。

これでやると継続性ですっと地域で活用できるのではないかな。

そのままですね、機材とかも置いていっていいというふうにおっしゃっていただきまして、そのシステム自体も置いていっていいというふうにいただいております。

で、そういうのを今進めております。

そこでですね、ちょっと発見したのがですね、学校になかなか適応ができない子たちが新宮町にもいらっしゃいます。

その方達もちょっと時間があるので来てくれませんかというふうに私がちょっと誘いました。来ていただいているんですが、何とですね、その子たちがずば抜けてすぐできる。

で、学校では順応できないんですが、そういう場ではですね、リーダーとなって学び合いなので、その子を中心に、こうば一と。

今ですね、世界で活躍しているIT企業の創業者だったり、共同経営者だったりっていうのは、普通の人の認知とはちょっと違う、例えばいじめられっ子だったりとか学校に行けなかった子が結構ば一と行っているっていうのがあるというふうにいる研究者もいらっしゃいます。

多分そういう流れなのかなと。

国ですね、ICTクラブですね、支援する、1,000万でしたかね。

1,000万を向こうがですね、アイデアを出してくれたら1,000万を提供するっていう、それ申し込んだんですが、それちょっと難しくて落ちたんですが、その要件の中にもですね、学校に適応できない子の要件がちょっと入っておりまして、国のほうも気づいております。

学校自体にですね、そもそも行けない理由の一つとしてはですね、そういう学校のシステムに馴染めないじゃない、もともとその認知がそういうふうになってないんじゃないかなっていうふうに考えてみるのが自然ではないかなというふうに思いました。

で、そういうプログラミングの場ではですね、秀でた才能を出しています。

そういった意味からもですね、ぜひ地域ですね、プログラミング教育というのはすごく有効性がある。プログラミングに限らず、ほかの分野でももちろん大事なんですけど、私が思っているのは、学校は結構全体にこう教えなくちゃいけないっていうのが基本的にありますし、上の方からおりてきたものを守らなくちゃいけないというのはあります。

それを守るためには学校はある程度限界があります。

それ以外の新しい取り組み、新しい企業とのいうのを進めていって、その企業とのですね、連携をつかまえておくんですけど、この前言ったビズモデルとかですね、バイオテクノロジーの分野でやっぱりなかなか新宮町の中で誰か専門家探すとか、なかなか難しい。

そういう情報をですね、そういう企業の方からとっていくと、どういうふうにしたらいいですかという相談の窓口にしてもいいのかなっていうふうに思っています。

そういった広い意味からですね、地域で学校でできない教育を進めてはどうかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（北崎 和博君） 教育長。

○教育長（宮川 優子君） はい、上畝地議員の説明、大変興味深く聞かせていただきました。地域ICTクラブですね、私も実際まだ、現場で見させていただいてないので、本当に恐縮なんですけども、やっぱり子ども達がいろんなお子さん達が目を輝かせて取り組んでるという部分についてはですね、非常にすばらしいことではないかなというふうに思いますし、町として教育委員会として考えなければいけないのは、学校の中でも外でもやはり子どもたちのニーズっていいですか、そういったものをしっかりとですね、的確にとらえて、そこに対応できるような環境をしっかりと整備するというこの中の一つにこれがあるのではないかなというふうに思いますので、十分にモデル的な部分で参考にさせていただきながら、なかなか企業っていいますと、私どもからすると敷居もちょっと高い部分はあるんですけども、いわゆる人的資源・情報資源・物的資源、町にはたくさんあると、地域にはたくさんあるというふうに思いますので、しっかりと視野を広げてですね、取り組みの芽を見つけていきたいというふうに思います。以上です。

○議長（北崎 和博君） 上畝地議員。

○議員（1番 上畝地 白馬君） はい。なかなか企業と連携するっていうのは敷居が高いというのはすごくわかります。

私もいろいろ調べてる内容で、ちょっと町長には御迷惑かけてるんですが、カタカナでずっと言い続けてる成果ですね、グローバルメディアオンラインっていうGMOっていう会社があるんですが、大企業ですが、そこからお話があつてですね、ちょっといろいろ話に来てくれという感じですね、おもしろいこと話す議員がいるみたいな感じも、町民の方から紹介を受けてですね。

昨年度末ぐらいにちょっと行ってきました。

いろんな私が知っている内容をですね、すべてこういろいろお話をさせていただいて、そういうことがあるんですかみたいな感じですね、いろいろ聞いていただいて、おもしろい話も向こうが取り組んでる内容の話もしていただきました。

企業はですね、常に情報取りたいんですね。取りたいし、次に来る波を逃さないように、常に注視しています。

注視して新しいものを試す場所がないんですね。なかなか日本のベンチャー企業は、日本で例えばセグウェイとかを走らせようと思ってもやっぱり道路交通法がありますと言われて、もうそれで終わりなんです。試す場所がない。

もちろん子どもたちに教育をする場でも、それをまず試す場所がない。

実際、実施をしてノウハウをつかんでやっていくというふうに、そういう気持ちがあります。

企業側には。

そういう向こうのニーズをうまくつかんで、それに合致させて新宮町に役立てる内容であれば、お金と技術スキルを出していただいて、無償でしていただくのは全然問題ではないのではないかなど。

あとはどうやって継続性を身につけていくか、地域に根付かしていくかっていうのを一生懸命考えて、根付かせていけばいいんじゃないかなというふうに思っておりますが、そういうアプローチの仕方をやって、企業と連携して地域教育をするっていうことについていかがでしょうか。

○議長（北崎 和博君） 町長。

○町長（長崎 武利君） 新宮町には、いろんな企業がございます。1企業ではバイオを使った食品油を燃料化している会社もございまして、そこは社長はそういった調査、研究をして、社長自らが立ち上げてやっておるところでございます。

ほかにもいろいろ会社もございますし、今、企業振興会との連携もしっかりとれておりますので、今言われるような教育に地元の企業の方々、そういったところから発信していけばいいんじゃないかなと今感じております。

○議長（北崎 和博君） 上畝地議員。

○議員（1番 上畝地 白馬君） ぜひ、その企業のニーズもつかまえて、企業の力をお借りしてやるのが新しいやり方だというふうに思っております。

福岡市もそのGMOにちょっと行ったときに福岡市とスタートアップ、大名小学校だったと思うんですけど、そこで銀行と一緒に取り組んで起業家を育てる取り組みをやってあるということで、いろいろそういう話も聞かせていただきました。

今度、視察に行こうと思うんですが、ちょっと有料だったのでいろいろ考えているところだと思うんですが、とりあえず行ってきていろいろ吸収して、またご提案できればなと思っております。

ぜひ新しい、学校ではちょっとなかなか難しい分野が多々あると思うんです。

そこをお金をかけずに費用をかけずにスキルもいただいて、それをもう専門分野のつながりを持って何かで出てきたときに相談をして、そこで町でどう舵をとればいいのかっていうのを判断しやすいことにもなりますので、ぜひ実現のほどよろしくお願いします。

○議長（北崎 和博君） よろしいですか。

○議員（1番 上畝地 白馬君） はい、いいです。答弁。

○議長（北崎 和博君） 以上で、一般質問を終わります。

○議長（北崎 和博君） お諮りいたします。本会議の会議中、誤読などによる字句、数字等の整

理訂正につきましては、会議規則第44条の規定により議長に委任していただきたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（北崎 和博君） 御異議なしと認めます。よって、誤読などによる字句、数字の整理訂正は議長に委任していただくことに決定いたしました。

これをもちまして、本日の日程を終了し、散会いたします。お疲れさまでした。

午前11時02分散会
